

「DFA アジアデザイン賞 2026」にて全身用 X 線 CT 診断装置「Aquilion Rise」が大賞 およびミラーレスカメラ用 RF レンズ「F1.4 L VCM シリーズ」が金賞を受賞

香港デザインセンターが主催する「DFA アジアデザイン賞 2026（DFA Design for Asia Awards 2026）」において、キヤノンの全身用 X 線 CT 診断装置「Aquilion Rise」が最高位である大賞（Grand Award）、ミラーレスカメラ用 RF レンズ「F1.4 L VCM シリーズ」が金賞（Gold Award）を受賞しました。



Aquilion Rise
（全身用 X 線 CT 診断装置）



F1.4 L VCM シリーズ
（ミラーレスカメラ用 RF レンズ）
* 写真は RF35mm F1.4 L VCM

大賞を受賞した「Aquilion Rise」は、慶應義塾大学との産学連携により共同開発された、臥位・立位・座位の 3 体位で撮影可能なマルチポジション CT です。立位や座位での撮影にも対応することで、従来の臥位撮影だけでは捉えにくかった病変を発見できる可能性があります。また、架台（ガントリ）を片側から支える構造により、装置周辺に広々とした空間を確保し、患者さんや医療従事者にとってアクセスしやすく開放的な検査環境を提供しています。さらに、曲面を基調としたやさしいフォルムとコンパクトなデザインにより、装置の圧迫感を軽減し、検査室全体の視認性と快適性を向上させています。加えて、ボア開放部に配置した照明が開口内を明るく照らすことで、患者さんの不安や緊張の緩和にも配慮しています。本製品のデザインは高く評価されており、国内の「第 56 回 機械工業デザイン賞 IDEA（日本デザイン振興会賞）」、「2025 年度グッドデザイン賞（グッドデザイン・ベスト 100）」に加え、国際的に権威のあるドイツの「iF デザインアワード 2026（金賞）」を受賞しています。

金賞を受賞した「F1.4 L VCM シリーズ」は、静止画と動画の双方で高品位な描写表現を追求する写真家・映像クリエイター向けの大口径単焦点レンズシリーズです。コンパクト設計でありながら、開放 F 値 1.4 が生み出す大きく上質なボケにより、被写体を印象的に際立たせる豊かな表現が可能です。また、クリック感なく絞り値の変更ができるアイリスリングの搭載により、動画撮影時の露出を滑らかに調整できます。本シリーズの全 6 本のレンズは外径を統一することで、複数のレンズを組み合わせる使用する場合においてもアクセサリの共通化やジンバル調整のしやすさに配慮し、スムーズなレンズ運用ができます。直線基調のシンプルで洗練されたボディにコントロールリング、フォーカスリング、アイリスリングの 3 つをバランスよく配置し、各リングの回転の重さや滑らかさを全レンズで統一することで、レンズ交換時にも一貫した心地よい操作体験を提供します。

キヤノンは、今回の受賞を励みとして、今後も性能とデザインを高度に融合させた製品づくりを続けていきます。

〈「DFA アジアデザイン賞（DFA Design for Asia Awards）」について〉

2003 年に創設された「DFA アジアデザイン賞」は、優れたデザインとアジア独自の視点を取り入れたユーザー中心のデザインプロジェクトを表彰し、アジア地域の人々の生活の質の向上を目指すものです。香港デザインセンターが主催する 7 つの表彰制度の 1 つであり、デザインに関わる個人と企業の成果を国際的に紹介するためのプラットフォームとなっています。